

竜中魂

令和4年1月20日(大寒)
竜北中学校だより
文責 校長 西村敏昭

夢の実現(創造)へ 自ら挑み(鍛練) ともに磨き合う(友愛) 竜中生

～故郷(ふるさと)を愛し、地域とともに学び、育つ感動を未来へつなぐ～

新年明けまして、おめでとうございます。寅年の令和4年、何事にも果敢に”トラ”い!!

まだまだ感染症対策に気の抜けない状況に変わりはありませんが、今年も晴天の元旦を迎え、新しい年が始まりました。旧年中は、みな様には大変お世話になり、ありがとうございました。

2022年は、冬季オリンピック・パラリンピック(中国)も予定されるなど、寅年にちなんで明るく、元気な1年になるよう祈りたいところです。竜中でも短い3学期ですが、3年生は新しい進路に向けた挑戦の時、1、2年生は、後輩を迎え、新たな学年への進級の助走の時です。自分の夢や目標に向かって、「逃げずに立ち向かうこと」「当たり前前を当たり前」できるよう、何事にも積極的にチャレンジする姿を期待します。保護者のみな様、地域のみな様、今年も「チーム竜中」で子どもたちの更なる成長をお支えください。



錦江湾の元日の日の出

夢の実現へ!自分を試し、伸ばそう! 高校入学試験がスタート!!

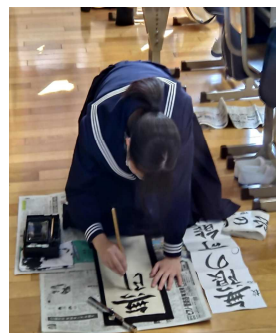
例年より早めの受験シーズンが始まりました。1月14日(金)から、私立高校の専願や特待等の入学試験がスタートしました。学習のまとめ、体調管理などこれまで培ってきた経験を自分の進路に生かす初めての機会です。自分自身の夢に向かって、また成長する機会だと捉え、精一杯トライしましょう!面接の練習をお手伝い頂いたCS委員さんや先生方、そしてご家族の方も精一杯応援して頂きます。

【私立専願・奨学生等入試 1月19日(水)】【高専推薦入試 1月22日(土)】【公立前期入試 1月24日(月)】【高専一般入試 2月13日(日)、私立一般入試 2月14、15日】

【公立後期入試 2月24、25日】【修了式 3月3日(木)】【3年生卒業式 3月4日(金)】

「無限の可能性」

14日に行った「書き初め大会」の3年生の課題です。日本の伝統文化でもある毛筆は、新年の事始めにうってつけです。現代では珍しくなった「モノクロ」だからこそ、新鮮で静寂な感じがし、心が落ち着きます。どのクラスも黙々と筆を走らせていました。1年生は「不言実行」、2年生は「新たな目標」が課題でした。書きながら意味をかみしめることができましたでしょうか?令和4年の行動に反映できるよう、努めましょう!



令和4年の竜中新リーダーです!

昨年度末に行われた生徒会役員改選選挙を経て決定した、令和4年度竜中の新リーダー、片岡聡汰会長をはじめ、1年生2名を含む新執行部の皆さんです。これまでの竜中の伝統を引き継ぎ、どんな活動をしてくれるのか、とても楽しみです。地域の皆さんも是非、ご期待頂き、お声かけをよろしくお願い致します!

令和4年も「地域とともにある学校」「郷土愛の育成」を目標とします！

1月13日(木) 熊日新聞

昨年十一月六日の「CSの日」についての新聞記事です。

氷川町では、全ての学校が「コミュニティ・スクール」として「地域とともにある学校」を目指しています。今年も、CS委員さんの主体的な関わりで、地域の方々から、小学生への出前授業を行う竜中生へ数多くの「示唆」ご支援を頂きました。

当日は、緊張しながらも学ん

だことを精一杯、小学生に伝え、達成感のある表情をたくさん見ることができました。CS活動はこれから子どもたちの郷土愛を育てたり、見守りをしたりする活動に加え、より時代の変化に応じた、学校への支援活動になるのではないのでしょうか。グローバル化や情報化の進む中で、現代的な子どもたちの課

題解決に向かうことは地域そのものが、その良さを生かしながら持続可能な社会の形成に向け、大きな力を持つことになると思います。学校課題の解決を目指すCS活動や地域学校協働活動はこれからもさらに盛んになっていき、地域総ぐるみでの子ども育成の核になっていくと考えます。地域の皆さんもどうか子どもたち、学校を応援頂き、氷川町の明るい未来を展望しましょう。

子どもの郷土愛 地域と育む

氷川町で、地域と学校が連携する「コミュニティ・スクール(CS=学校運営協議会制度)」の活動が盛んだ。住民や保護者らでつくるCS委員のサポートを受けた中学生による出前授業では、小学生に地域の歴史や産業などを教えることで、郷土愛や自立心の育成にもつながっている。

氷川町 住民連携で学校運営



竜北東小の児童たちに、氷川町の寺について授業する竜北中の生徒たち(奥の5人)一同

出前授業 裏方から支え



10月中旬、小学校の出前授業を前に職員(左)から町へ行くこと学んだ竜北中の生徒たち

昨年の11月6日、竜北東小と竜北西部小で開かれた出前授業。CS委員の支援で準備をしてきた竜北中の2年生64人は、6、7人の班ごとに分かれて教壇に立った。「心優しい町づくりに」をテーマにした班は、同中のあいさつ運動などを紹介。「車を持たないおじいちゃん」とうやうや言い物に行っているで

クローズアップ

「しょうか」など小学生に問い掛けた。小学生と一緒に粘土で勾玉を作った。町の歴史を教えたり、特産品のパンペイユやナシの絵を描いたりする班もあった。

学校と地域住民らが連携して学校運営に取り組むCSは、県内の小・中・義務教育学校では255校が導入し、導入率は51.3%(同5月現在)。町では全国に先駆けて2006年に氷川中など2校で始まり、現在は全5小中学校が導入済み。17年にはキャリア教育を充実させたことが評価され、同中が文部科学大臣賞を受賞した。

盛んな活動を支えているのが、各校のCS委員だ。竜北中CS委員の田副総さん(67)は「子どもたちが町に愛着を持つ地域で活躍する存在になっても

手応えを語る。(緒方季咲)

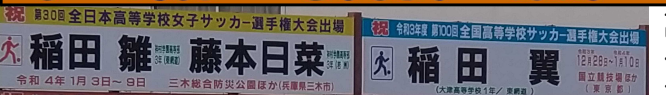
「ほしい」との思いから、学校でのイベントの準備や集団登下校の付き添い、花の植栽などに関わる。他のCS委員も町主催の「梨マラソン大会」の運営手伝いや宮原三神宮秋の例大祭でのポニーの飾り馬の奉納など、地域での活動にも積極的に取り組む。

竜北中生による出前授業は、昨年6月から準備を開始。CS委員が生徒から取り組みたいテーマを聞き取り、調整した。中学生は農家や町職員から受けた授業を基に教材を作成。CS委員が小学生役になり、予行練習を2回行い、話す速さや言葉遣いを修正したという。

出前授業に臨んだ同中の濱田武さんは「緊張したが、教えてもらったことをしっかり伝えられた」と満足そう。授業を受けた竜北東小6年の江上愛璃さんは「将来、私も地元のことを後輩たちに教えた」と刺激を受けた様子だった。

同町の太田篤洋教育長は「CS委員の皆さんの頑張りが子どもたちの成長や、地域と共にある学校づくりにつながっている」と手応えを語る。(緒方季咲)

夢の実現！ 竜中先輩の躍動！



冬休みに行われた全国高校サッカー大会で優勝した女子の神村学園(鹿児島)、また男子準優勝の大阪高校のチームには竜中の先輩が3人名を連ね、TVでもその笑顔やプレーを見ることができました。厳しい環境で頑張り抜き、晴れの大舞台までたどり着いた姿に大いに感動をもらいました。きっと竜中の後輩にも「やればできる!」「あきらめるな!」「みんな頑張れ!」と竜中魂を伝えてくれているのだと感じました。「勇気」「元気」と「感動」をありがとうございました!